

編集後記

本号は、今年4月にスタートした2022-23年度編集委員会が担当する初めの号になります。編集委員の交替もあり、新たなメンバーも加わって、本誌の編集に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、第13巻第2号では、原著論文3本、書評1本をお届けしました。今年度より、旧日本ヘルスコミュニケーション学会は、ヘルスコミュニケーション学関連学会機構に改組され、その分科会の一つとして日本ヘルスコミュニケーション学会が置かれることになりました。本誌は、日本ヘルスコミュニケーション学会の学会誌ですが、他の分科会を含めたヘルスコミュニケーション学関連学会機構会員全体からの一般投稿を受け付けています。今号も、保健医療福祉のさまざまな領域におけるコミュニケーションの課題について、ポスター、インターネットの掲示板、手話と多様な形のコミュニケーションを、量的、質的に分析したバラエティ豊かな論文が集まっています。また、書評で取り上げられたアーサー・クラインマンの著書は、臨床医学、公衆衛生学、文化人類学、社会学などさまざまな分野を横断するもので、どの領域におけるヘルスコミュニケーションの研究者にも示唆のあるものと思われまます。ぜひ合わせてご一読いただければと思います。

また、お気づきの通り、今号よりレイアウトが一段組に変更されました。本誌がオンラインジャーナルであることを前提に読みやすさを確保しつつ、編集作業の負担を減らし、著者にとっても書きやすい形を目指したためです。今期の編集委員会では、学会誌の更なる充実を目指し、新たな企画の検討などしております。会員の皆様からも、ご提案やご要望などありましたら、ぜひお寄せいただくとともに、たくさんの方の投稿をお待ちしております。

今号の発刊にあたりましては、とりわけ査読者の先生がたに、お忙しいところ（時に無理な締切でのお願いにもかかわらず）ご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。今後もさまざまな形で会員の皆様のお力添え、ご支援をお願いすることがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

編集委員長 石川ひろの

日本ヘルスコミュニケーション学会誌-第13巻第2号

Health Communication Research Vol.13, No.2

2022年10月1日発行

日本ヘルスコミュニケーション学会誌編集委員会(2022-2023)

編集委員長

石川 ひろの (帝京大学大学院公衆衛生学研究科)

編集委員

大野 直子 (順天堂大学 国際教養学部)

奥原 剛 (東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学)

榎原 圭子 (東洋大学社会学部社会心理学科)

島崎 崇史 (東京慈恵会医科大学医学部環境保健医学講座)

杉本 なおみ (慶應義塾大学看護医療学部)

高永 茂 (広島大学大学院人間社会科学研究所)

八巻 知香子 (国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部)

発行者 日本ヘルスコミュニケーション学会

<http://healthcommunication.jp/>